

<案3> 「高卒認定試験」受験におけた日本語プログラム

報告者: 中村夏帆(岩倉市立南部中学校)

実践の場所: 地域支援教室
対象生徒: 17歳 タイプC(滞日期間 日本生まれ)
実施形態: 個別
プログラムのタイプ: 教科と日本語の統合学習
実施する科目等: 地域支援教室の個別学習支援 10時間
担当者: 日本語支援者

3.1 プログラム編成の考え方

高校に入学しながらも中退する外国人生徒は少なくない。高校中退後、どのように人生を切り拓いていくか展望できずにいるケースも多い。そうした高校年齢の若者が社会参加するプロセスの一つとして、「高等学校卒業程度認定試験¹」(以下、高卒認定試験)を受験し、「高卒」として、次のキャリアを形成していくという選択がある。そのルート我希望する若者が学ぶ場としては、地域の日本語教室が挙げられる。

そこで、高卒認定試験の合格を目標にした地域支援教室の日本語プログラムを開発提案する。目標は「高卒認定試験の合格」であり、そのために、教科内容の学習と日本語の学習の統合型の学習のためのプログラムとする。教科として取り扱う内容は試験科目の一つである「公共」とした。

また、「公共」とその学習に必要な日本語の知識・技能を身に着けると同時に、主体的にライフコースを選択するためのことばの力を育むことを目指す。その上で、地域支援教室での交流を通じて、多様な人生経験をもつ支援者の職業人としての語りに触れ、教科の学びと将来の職業を結びつけて考えられるようになって欲しいと期待する。そこで、支援者と学習者が、教える／教えられるという関係性ではなく、社会の一員として、人生の先輩と後輩として、語り合う活動を配置してプログラム編成した。

3.2 開発した日本語プログラム 日本語で学ぶ「公共」

支援対象の若者は、日本生まれで、日常の口頭でのコミュニケーションを中心とした生活では日本語に関する困難はほとんどない。しかしながら、日本社会の経験や中学校までの社会科等の学習によって形成された社会的なものの見方や情報処理の力については課題が大きい。日本語の力も、社会科の教科書の文章を読んで理解するには、教科の用語、抽象度の高い語彙や複合語、また、社会科で頻繁に利用される事柄同士の関係を表す表現や文構造については理解が困難である。そこで、本プログラムでは、高卒認定試験の合格のために教科科目「公共」の「現代の人間と文化」および「現代の国家と民主主義」「現代の経済と国民の福祉」「現代の世界と人類の課題」に関し、基本的な知識概念を理解することを教科のねらいとする。探究型の活動として、自分に合った職業を考えたり、人生設計を立てたりする活動を配置し、「公

¹ 高等学校卒業程度認定試験とは、文部科学省が実施する高等学校を卒業した者と同等以上の学力があるかどうかを認定するための試験のこと。合格すると、大学等の受験資格が与えられ、また、就職、資格試験等へ活用ができる。年に2回試験が実施され、年間1万8千人程度が受験している。

文部科学省「令和7年度高等学校卒業程度認定試験パンフレット」

https://www.mext.go.jp/content/20250306-mxt_syogai02-000013750_002.pdf (2025年3月26日閲覧)

共」に関する学習を通じて、職業観を育む。また、探究活動に参加しながら、「公共」に関する重要な用語や概念を表す日本語の表現を知り、相手にわかりやすい順序で、具体例を示しながら、考えや意見を説得的に伝えたり、書いて表現したりするための日本語の力を育むことをねらいとする。

そのため、「公共」の学習内容から重要な内容を抽出し、10回の学習活動として構成する。社会を様々な視点から見ることを意識し、その当事者として自分を捉えられるように、身近な事柄を例示しながら学べるように工夫をする。日本語の力を育むために話し合い活動を多く設け、「公共」の内容に関する語彙・表現へのアクセスがしやすい学習環境を提供するとともに、伝えたいと思ったことをより適正な表現で伝えられるように支援する。

①目標

「公共」の主要課題である国家と国民、民主主義、福祉等に関する語彙や表現を知り、自身の市民としての役割について支援者と語り合うことを通して、自身の職業選択における多様な可能性を積極的に考えることができる。

②学習支援計画（10時間）

1 学習活動名 (時間)	日本語で学ぶ「公共」(週1回、1時間程度)		
2 対象1人	滞日歴：日本生まれ 日本語の力：同級生との会話に困らないが、教科学習のことは難しい。 母語の力：同級生と会話ができる。読み書きはできない。 教科等の力：全体的な困り感がある。		
3 学年	17歳（高校1年で中退、2年生相当）		
4 目標	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
	公共の主要概念(民主主義・福祉・文化等)に関する語彙や表現を使って、自分の思いや考えを、より適切に伝えることができる。	社会を公共という視点で捉え直し、社会の中で生きる自分について、支援者と語り合うことができる。	自身の将来の職業選択の可能性について、公共の学習で得た視点から積極的に考えることができる。
5 プログラムのタイプ	<input type="checkbox"/> A(生活のための日本語) <input type="checkbox"/> B(基礎日本語) <input checked="" type="checkbox"/> C(技能別日本語) <input type="checkbox"/> D(日本語プロジェクト) 主なプログラム:◎ 関連付けて実施するプログラム:○		
6 主なリソース	高卒認定試験のワークブック 参考図書:J-出版編集部編(2023)『高卒認定ワークブック 新課程対応版 公共』J-出版		
7 支援計画	トピック・内容／主な活動／語彙・表現など		
	1	「現代の人間と文化」 内容:グラフや表の読み方、社会との関わり 活動:自己紹介をする。自身と社会との関わりについて伝え合う。 語彙・表現:「おおよそ」「～ほど」「～とともに(相関関係)」	
	2	「現代の人間と文化」 内容:青年期の課題、世界の宗教と信仰 活動:フロイトの防衛機制を参考に、欲求不満時の自己の適応方法について語り合う。 語彙・表現:自己実現要求、抑圧、合理化、反動形成、代償、信仰 「～にすぎない」「～ながら(逆説)」「～を得ない」	

	<p>例:これまでの私は、テストの点が悪いのは勉強をしなかった私が悪いと知りながら、先生が難しい問題を作ったせいにしてきたに<u>すぎない</u>と思います。</p>
3	<p>「現代の人間と文化」 内容:人口・エネルギー問題、環境問題と対策 活動:地球規模の課題を知り、自身の行動と地球を結びつけて語り合う。 語彙・表現:代替、原子力エネルギー、再生可能エネルギー、人口ピラミッド、地球温暖化 「～限り(限界)」「～たら最後」「～ないで済む」 例:再生可能エネルギーを増やせば、今の生活を変えないで済むし、地球に悪くないはずです。</p>
4	<p>「現代の人間と文化」 内容:生命倫理 活動:生命の誕生と終末医療から、家族観や死生観を語り合う。 語彙・表現:生命、倫理、基本的人権、医療、QOL 「～かわりに(代償)」「～ないとも限らない」 例:将来、医療技術が進んでも治せないほど大きな病気にかからないとも限らないと思います。</p>
5	<p>「現代の国家と民主主義」 内容:民主主義の基本原則、日本国憲法と基本的人権の尊重 活動:基本的人権を守るために最も大切な権利について語り合う。 語彙・表現:憲法、権利、自由権、平等権、社会権、請求権、勤労 「～において」「～なしに」「～はおろか」 例:すべての国民は、憲法において平等だとされています。</p>
6	<p>「現代の国家と民主主義」 内容:国民主権と議会政治、地方自治と住民自治 活動:外国籍住民の政治参加について語り合い、一緒に提言書を作成して、他の学習者や支援者の前で発表する。 語彙・表現:主権者、三権分立、議会政治、地方、自治、提言書 「～ものだ(当然/忠告・義務)」「～を問わず」「～に関わらず」 例:国籍に関わらず、全ての人が活躍できる社会となるように提言書を作成しました。</p>
7	<p>「現代の経済と国民の福祉」 内容:市場の仕組み、経済の変動、企業からみた経済 活動:レストランの経営を具体的に考えながら、価格の決め方やお店を出す場所を戦略的に語り合う。 語彙・表現:市場、価格、供給、需要、インフレーション、企業 「～も同然だ」「～はまだしも」 例:私が住む町には高級レストランがないから、高級レストランを作ったら、お金を出しても美味しいものが食べたいという市場を独占した<u>も同然だ</u>と思います。</p>
8	<p>「現代の経済と国民の福祉」 内容:国民生活と労働 活動:支援者の給料明細を読み、税金や社会保障費について、希望する労働形態や将来設計に関連させながら話し合う。 語彙・表現:消費者基本法、社会保障制度、医療保険、年金保険、雇用保険、労働三権、労働基準法、男女雇用機会均等法 「～はまだしも」「～ねばならない」「～なんて」 例:給料からお金が引かれるなんて絶対に嫌だと思ったけど、将来のことを考えて、もう一度最初から考えねばならないと思いました。</p>

9	<p>「現代の経済と国民の福祉」 内容: 日本経済のあゆみ 活動: 経済のあゆみと、人々の国境を越えた移動の歴史を考え、自身の職業観と家族観を語り合う。 語彙・表現: 戦後、石油危機、バブル経済、消費税、移民、国境 「～そうにない」「～に比べて」 例: 世界経済がグローバル化しているので、国境を越えた人々の移動は減りそうにないですね。</p>
10	<p>「現代の世界と人類の課題」★ 内容: 国際政治と国際連合、新たな対立と紛争、国際経済の仕組み 活動: 戦争や紛争がない世界とするための、世界のしくみについて語り合い、紙面にまとめ、他の学習者や支援者に発表する。 語彙・表現: 主権国家、領域、国際連合、国際司法裁判所、紛争 「～かれ～かれ」「～によって」「～ということだ(伝聞)」 例: 国と国の間には、<u>多かれ少なかれ</u>対立が生じている。</p>
8 評価方法	<p>知識・技能: 自分の思いや考えを正確に表現し、説得力がある伝え方ができるようになったか。 思考・表現・判断力: 他の学習者や支援者と一緒に社会の出来事について考える時に、自分事として考えられるようになったか。 学に向かう力: 教科の学びや自分の将来の職業についての学びが、教室外においても自律的にできるようになったか。</p>

支援計画の★印について、以下具体的に提案する。

3.3 支援活動案 第10回「現代の世界と人類の課題」

前9回までの「公共」の学びを経て、ニュースやSNSの情報理解とその後の話し合いを通じて、現在、世界では争いが絶えない状況であることを学んでいる。しかし、遠い国で起きている自分とは関係のない出来事という認識のままであると考えられる。そこで、最終回では、世界の出来事に関し、地球市民としての自分の役割について考え、他者に伝える活動を設計した。国際情勢に関しては、聞き手に多様な考えや立場の人がいることを想定し、誤解が生じないように伝える必要がある。そこで、日本語に関しては、相手の考えを考慮して日本語の表現を選択しながら伝えるところに目標を置いた。

(1) 支援活動計画(10回目)

①目標

知識及び技能: 国際政治のあり方について知ったことや考えたことを、聞き手を考慮して表現を選択して話すことができる。

思考力・判断力・表現力等: 民主主義の考え方と争いが絶えない現在の社会情勢とを関連付けて国際政治のあり方について考え、図表等を利用して説得的に伝えることができる。

学びに向かう力・人間性等: 公共という考え方から国際社会における自分の役割について考えることができる。

②支援活動計画

	支援活動	語彙・表現	支援上の留意点 教材など
導入 5分	・ 記事やインターネットを見ながら、世界の争いについて知っていることを話	戦争、紛争	新聞記事、インターネットの検索機能

	す。 ・ 平和な世界を築くために、私たちに何ができるのか、思いついたことや考えていることを話す。	平和な世界を築く 「今も戦争が続いている。」 「第二次世界大戦について、学校で勉強した。」	・ 国際連合のような中学校の学習内容に触れ、その学習者にとっての既習事項を確認する。
展開1 20分	・ 高卒認定試験のワークブックの該当章をまとめたパワーポイントを示し、学習者と支援者が一緒に読んだり、疑問やわかったことを話したりしながら学び合う。	主権国家、領域、国民 集団安全保障方式 国際連合、常任理事国 国際司法裁判所 地域紛争、民族紛争	パワーポイント、プロジェクター ・ 言語的な負荷を減らして内容に集中するために、図表を多く使用する。
展開2 30分	<p>問い： これまでに様々な試みがなされてきたが、現在に至っても、世界から争いはなくなっていない。どうしたら争いのない世界が築けるのか、具体的な方法を一緒に考えましょう。</p>		
	① 教科の学びと現在の社会を結びつけ、争いのない世界のあり方について学習者と支援者が語り合う。	例：「国と国の間には、 <u>多かれ少なかれ対立が生じている。</u> 」 例：「国際連合が強い軍隊を持つことは、 <u>考えようによっては戦争をなくすことになるのかも</u> しれない。	パワーポイント、プロジェクター → 問いを投影する ・ 支援者は、話し合いの内容を簡単にメモしておく。
	② 聞く人の助けになるように意識しながら紙面にまとめる。文章ではなく、箇条書きや図表等を使うようにし、配色も含め効果的な伝え方を工夫する。	例：「争いが <u>ない世界にするためにできること3選!</u> 」 例：「1、SNSで争いが <u>ない世界にしよう</u> と投稿する。」	大きめの紙 マジック 12色 ・ できるだけ漢字で書けるように、書きたいことを漢字で示す。
	③ 発表のメモを作成し練習する。	例：「A新聞によると、毎年、〇〇人の方が戦争や紛争で亡くなっている <u>ということ</u> です。」	ノート ・ 新しく知った語彙や表現については、丁寧にメモし、使ってみるよう促す。
	④ 他の学習者や支援者の前で発表する。		・ 他の学習者や支援者たちには、事前をお願いしておく。
まとめ 5分	・ 発表して新たに考えたことを支援者と共有し、発表のために作成した紙面に書き込む。	例：「SNSへの投稿に協力すると <u>言ってくれた人がいて嬉しかった。</u> 」	紙面 ・ 次の学びへつながるよう前向きな声かけをする。

③評価

知識及び技能：国際政治のあり方について考えたことを、様々な思想をもった人に正確に伝わるように表現に気を付けて話すことができたか。

思考力・判断力・表現力等：争いを解決するための国際政治のあり方について支援者と語り合い、まとめたことを他の学習者や支援者に誤解がなく伝えることができたか。

学びに向かう力・人間性等：国際的な課題を自分事として捉え、社会の中の自身の役割について考えることが

東京学芸大学 先端教育人材育成推進機構 外国人児童生徒教育推進ユニット
日本語プログラム開発プロジェクト 高等学校における日本語プログラム 第2部 日本語プログラム例
できたか。